

えいらい

No.13

平成 24 年 8 月発行

発行元／財団法人永頼会 松山市民病院

夏号
2012〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

近況報告

～新 S 棟建設と地域医療の連携・充実～

院長 山本祐司



残暑お見舞い申し上げます。日ごろより関係各位の皆様には、地域医療連携や救急医療におきまして私ども松山市民病院との交流をいただき厚く御礼申し上げます。

世界では、今年は主要国のリーダーたちが選挙を迎える年で、これまでにロシア・プーチン、フランス・オランドと大統領が交代しましたが、今後中国とアメリカはどうか注目されます。また、ユーロ圏の信用不安に端を発して世界経済が減速する中、そのうっぶんを晴らすかのようにロンドンオリンピックが開催されました。

日本では、昨年の3.11以後「想定外は起こりうる」「安全に絶対はない」などと大災害や安全に対する国民の思いが変わりました。依然として復興へ向けての動きが停滞したまま、原発再稼働や消費増税問題が政府により決定・実行されようとしています。

松山市民病院では、新S棟建設へ向けて、本年8月に新タワーパーキングが利用可能となり、来院者のスムーズな動線が確保されるようになりました。内科外来仮設工事と並行して中庭部分にリニアック棟を建てますが、外来および入院診療はこれまで通り継続されます。12月には新S棟東半分と中央連絡棟の本体工事(第一期)に取り掛かり、平成26年1月には第一期工事終了、引越しの後、既存S棟を解体して新S棟西半分の第二期工事が始まり、平成27年3月完成を目指します。

最新の免震構造を取り入れ、万一被災しても地域の安全・安心・信頼に応えられる「市民のための病院」として、継続して地域社会に貢献できることは職員一同の喜びとするところであります。工事期間中、患者さんや関係各位にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

国は、四大死亡原因としてがん、心臓病、脳卒中、肺炎を挙げ、特にこれらの早期発見や予防対策に力を注いでいます。当院もがん診療連携推進病院の県指定となり、五大がん一多い順に大腸、胃、肺、乳房、肝臓一の検診や精密検査、これに加えて子宮・前立腺がんはそれぞれ婦人科・泌尿器科にて個別の検診や精密検査可能となっております。

また、心臓病・脳卒中に代表される循環器病は突然発症が多く、がんとは対極にある血管病・生活習慣病群です。これらに対する予防として、危険因子(リスクファクター)としての高血圧、糖尿病、不整脈、脂質異常症、肥満、喫煙などに対する食事・生活指導や薬物療法などによる「リスク管理」が大切ですが、実施率(メタボ健診普及率)が上がっていません。当院では、受診者の希望に応じた質の高い検診や二次検査が臓器別・個別に各専門診療科医師のもとで、また「脳ドック」や「レディース検診」なども随時受けられるよう対応したいと思っております。

一方、高齢者肺炎増加により肺炎は死因第三位に浮上、医科・歯科連携の「口腔ケア」などによる誤嚥性肺炎対策や、肺炎球菌・インフルエンザなどの予防ワクチン接種が勧められます。超高齢社会を背景にこのような疾病構造の変化に地域医療が敏感に対応し、連携・充実することが求められます。

このような中で、「ネットを利用した地域連携システム」や「電子カルテ」導入に当院も鋭意取り組んでおります。

新S棟建設を職員一人ひとりが励みに感じ、地域医療の「連携」と「充実」を図りながら、皆様と共に成長できるよう努めたいと思っております。今後とも、松山市民病院へのご指導ご支援を宜しくお願い申し上げます。近況報告とさせていただきます。



撮影：総務課／山辺 由紀（興居島相子ヶ浜海水浴場）